

県と造園緑化協 災害時応援協定

地震や豪雨などの大規模災害に備え、県内百社が加盟する県造園緑化協会は 30 日、災害復旧に関する応援協定を県と締結した。自然災害で道路や河川などが損壊した時に、県内の造園業者らが無償で被災地点の様子を写真で県に報告したり、倒木を破碎、撤去したりする。



県と造園緑化協 災害時応援協定

地震や豪雨などの大規模災害に備え、県内百社が加盟する県造園緑化協会（静岡市葵区）は三十日、災害復旧に関する応援協定を県と締結した。自然災害で道路や河川などが損壊した時に、県内の造園業者らが無償で被災地点の様子を写真で県に報告したり、倒木を破碎、撤去したりする。

県庁で調印式があり、高林久雄会長は「協会には小規模な事業者が多いが、小回りが利くことを生かして県民に貢献したい」と述べた。県の野知泰裕交通基盤部長は「非常に有意義な協定で、防災訓練などにも参加してもらい、非常時に連携できるようにしたい」と感謝した。

協会は二〇一一年五月、東日本大震災で被災した岩手県大槌町で、十七社三十二人が土砂や廃棄物を運び出すボランティア活動に取り組んだ。桜井淳副会長は「被災現場で初めて分かったこともあった。この経験を県内の活動にも生かしたい」と話した。

地元は期限ぎりぎりの三十一日に最終会議

災害時の応援協定を結ぶ（右から）県造園緑化協会の高林会長と県の野知部長＝県庁で

で
談
前進」

（平成 27 年 3 月 31 日 中日新聞 朝刊）

県と県造園緑化協会が協定

県は 30 日、県造園緑化協会と災害協定を締結した。大規模地震などの際、県の要請に基づいて協会の会員社が土木施設の被災状況を報告したり、倒木などの廃棄物を処理したりすることを取り決めた。

災害時 倒木など処理

県と県造園緑化協会が協定

県は30日、県造園緑化協会（高林久雄会長）と災害時応援協定を締結した。大規模地震などの際、県の要請に基づいて協会の会員社が土木施設の被災状況を報告したり、倒木などの廃棄物を処理したりすることを取り決めた。

協定書に調印した野知泰裕県交通基盤部長は「風水害も含め、いつ災害が起きるか分からない。訓練で意思疎通を図れるようにしたい」と述べた。



協定書を取り交わした高林久雄県造園緑化協会会長（右）と野知泰裕県交通基盤部長—30日午前、県庁

高林会長は「地域に役立つことをしようと牽仕を決めた。被災地域に他地域から応援に入るなど、小回りの利く活動ができるのではないか」と話した。

名称は「愛鷹スマートIC」

東名高速道

沼津市は30日までに、東名高速道愛鷹パーキングエリアに接続するスマートインターチェンジ（IC）の名称が「愛鷹スマートインターチェンジ」に決まったと発表した。

ETC（自動料金収受システム）専用の愛鷹スマートICは2015年度末の開通を目指して工事を進めている。沼津市では初のス

松崎町・那珂川沿い

松崎町の那珂川沿いに並ぶ約1200本のサクラが見頃を迎えている。桜並木は河口から大沢温泉周辺までの約6kmで、ソメイヨシノを中心にほぼ、満開状態。隣接する「田んぼを使った花畑」や河川敷に咲き誇る菜の花と共に、華やかな春の雰囲気を出している。

沼津・門池公園

沼津市の岡一色の門池公園で桜が見頃を迎えている。春真っ盛りの陽気となった30日、富士山を背に咲き誇る桜を見物しようと多くの市民が訪れた。

（平成27年3月31日 静岡新聞 朝刊）

緑や樹木に関する記事 151

磐田の住民グループ 公園整備続け5年目

磐田市敷地の山林を整備している地元住民らの「敷地里山を守る会」の活動が今春で5年目を迎える。放置された山林は常時開放の「里山公園」に生まれ変わった。

（平成27年3月30日 静岡新聞 朝刊）

吉田 チューリップまつり

吉田町の「チューリップまつり」が 28 日、同町の県営吉田公園で開幕。約 60 品種 10 万本が花壇に植えてあり、色鮮やかな花卉が春を彩っている。4 月 5 日まで。

マツ移植準備に 2, 3 年 沼津の千本松原

沼津市の景勝地・千本松原で津波避難用の人工の山(築山)を造成する計画で、市は 27 日、移植予定のクロマツの根の状態を樹木医とともに確認し、伐採に反対してきた住民に今後の手順を説明した。移植に向けた準備で細かな根を生やす「根回し」に 2, 3 年かかる。

(平成 27 年 3 月 29 日 中日新聞 朝刊)

ミシマサイコ守れ

絶滅危惧種に指定されているセリ科の植物「ミシマサイコ」の周知と普及を目指す「ミシマサイコの会」は 28 日、種まきの体験会を三島市の錦田公民館で開いた。

(平成 27 年 3 月 29 日 静岡新聞 朝刊)

島田の公園 カタクリ開花

島田市天然記念物に指定されているカタクリの花が、同市金谷富士見町の牧之原公園内にあるカタクリ園で開花し、春の訪れを告げている。28 日から開園し、4 月 5 日まで一般公開される。

(平成 27 年 3 月 28 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 150

富士「サワトラノオ」群生地 市指定記念物に答申

富士市文化財保護審議会は 26 日、市指定天然記念物に新たに「浮島ヶ原のサワトラノオ群落」を答申した。4 月 21 日の市教委会議で決まれば、植物群落では初。

桜並木幻想的ライトアップ

伊東市中心街を流れる伊東大川(松川)沿いで 4 月 5 日まで、遊歩道や桜並木をライトアップする「伊東松川灯りの小径」が開かれている。

(平成 27 年 3 月 27 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 149

浜北・不動寺 ミツバツツジ見ごろ

「平口の不動さん」と親しまれる浜松市浜北区平口の不動寺の参道で、「ミツバツツジ」が淡い紫色の花を咲かせ参拝者らを楽しませている。

屋上 菜の花畑満開 御前崎総合病院

御前崎市池新田の市立御前崎総合病院外来棟屋上にある菜の花畑が、見ごろを迎えている。28日午前10時～午後3時に一般開放し、市民らによる菜の花摘みを開く。

(平成27年3月26日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 148

小糸製作所 静岡市に土地 6.4ha 寄贈

4月に創業百年を迎える小糸製作所は24日、静岡市清水区宮加三の社有地約6.4haを市に寄贈した。市が小糸記念日本平さくら公園(仮称)として整備し、4月1日に開園する。

(平成27年3月25日 中日新聞 朝刊)

保護育成のカタクリ見頃

富士宮市立富士根北中前に群生するカタクリが一斉に咲き誇り、見頃を迎えた。カタクリの保護・育成活動に取り組む同校生徒が春休み期間を利用し、来訪者の案内を務めている。

(平成27年3月25日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 147

三保の松枯れ大幅減少

静岡市は23日、世界文化遺産富士山の構成資産の三保松原で、2014年度に松枯れで伐採した松は206本で、前年度の792本から大幅に減少したと発表した。市の担当者は「無人ヘリコプターによる薬剤散布の効果が表れた」と説明、今後も継続して空中散布する方針を示した。

(平成27年3月24日 中日新聞 朝刊)

枝垂れ桜 満開 三島・佐野美術館

三島市中田町の佐野美術館の庭園「隆泉苑」の枝垂れ桜が満開を迎えている。

(平成27年3月24日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 146

桜 開花宣言

静岡気象台は22日、静岡市で桜(ソメイヨシノ)が開花したと発表した。開花は昨年より2日早く、平年より3日早い。

(平成27年3月23日 静岡新聞 朝刊)

花フェスタ フラワーパーク開場

花を通して浜名湖周辺の観光を盛り上げる「浜名湖花フェスタ2015」のメイン会場となるはままつフラワーパークが21日、開場した。1300本の桜とチューリップの競演や夜桜ライトアップなどがあり、「世界一美しい」と誇る庭園がお目見えする。

(平成27年3月22日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 145

ガーデニングブームを逃した理由 造園業界は花が苦手

公共緑化依存し過ぎのツケ 庭の大衆化、園芸化に遅れ

野田坂伸也さんが「環境緑化新聞」に造園業者には刺激的なことを書いています。

10数年前にガーデニングブームが起こった時、日本の造園業は、公共緑化の比重を下げて、個人庭園をもっと重視する路線に軌道修正をする道もあったが、あまりにも公共緑化に依存し過ぎた業界は、その転換が出来ず、また日本庭園の関係者は、日本の大衆が日本庭園に見切りをつけてしまったことに気付かず、プライドもあってできなかった。その間にエクステリア業界と園芸業界に個人庭園の市場の多くを奪われてしまった。

造園コンサルは植物を知らない

日本庭園は、植物よりも石が中心の庭で、植物の種類も少なく、植栽技術、植栽デザインも偏っている。また、植栽のスタイルや新しい植物の研究が進まなかった。ガーデニングは園芸的な要素が大きな割合を占めているが、従来の日本の造園業界は、それが苦手でむしろ軽蔑してきた。

クイック・ガーデニング 料金は木の高さで算出

首都圏全域と、東海地方や北海道・札幌などでも個人向けに庭木の剪定・伐採サービス等を提供している(株)クイック・ガーデニングは、2014年12月にジョイフル本田、2015年2月にLiXILビバと相次いで業務提携契約を締結した。これで業務提携役を交わしたホームセンター等は計17社となり、業界でも最大の規模を実現。

(平成27年3月15日 環境緑化新聞)

緑や樹木に関する記事 144

南アルプス植生調査結果発表

JR 東海のリニア中央新幹線工事が予定されている南アルプスで静岡市が昨年実施した植生調査結果がまとまった。工事前用宿舎建設候補地の西俣の森林で豊かな樹種や植物の特徴的な分布が確認され、樹木の群落を残すべきと配慮を求めている。

(平成 27 年 3 月 19 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 143

早咲き「大知波桜」命名

湖西市大知波の大神山八幡宮にある早咲き桜を「大知波桜」と名付け、子孫を挿し木で増やす取り組みが地元で進められている。「あたま桜や河津桜のように、いつか湖西の名物に」と、住民有志が今年も高さ1mほどに育てた苗木を植えた。

実はハゼノキでした

浜松市北区細江町気賀にある市指定天然記念物「気賀のウルシ」が、ウルシではなく、同じウルシ科ウルシ属の別種にあたるハゼノキだったことが市の調べで分かった。

(平成 27 年 3 月 18 日 中日新聞 朝刊)

黄色いじゅうたん春の彩り

静岡市葵区の麻機遊水地周辺ではアブラナ科のセイヨウカラシナが満開となり、浅畑川や巴川の土手を黄色く染めている。

災害に備え都市緑化

県富士農林事務所は 17 日、「ふじのくに花の都しずおか富士地区推進協議会」のメンバーを対象にした講演会を県富士総合庁舎で開いた。樹木医で、NPO 法人樹木いきいきプロジェクトの喜多智靖理事長が講演した。

箱根西麓森林でカエデなどを植樹

三島市の環境ボランティア団体などでつくる「箱根接待茶屋の森づくり協議会」はこのほど、森林への理解を深める「森の楽校」を同市の箱根西麓で開いた。カエデやケヤキなど 8 種 260 本の苗木を森林に植えた。

千本桜へ夢植樹

静岡市葵区の駿府城公園で 17 日、サクラの植樹式があり、近くの静岡聖母幼稚園の年長児 36 人や花壇の手入れをしているボランティア団体など 70 人が参加した。

(平成 27 年 3 月 18 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 142

松毛川に植樹 200 本

NPO 法人グランドワーク三島は 15 日、整備を進める三島市の松毛川で植樹活動を実施した。タブノキ、エノキなど約 200 本を植えた。

(平成 27 年 3 月 17 日 静岡新聞 朝刊)

千本松原クロマツ切らず

歌人若山牧水が愛した沼津市の景勝地「千本松原」で津波避難用の人口の山を造成する計画に住民が反対している問題で、沼津市は 16 日、クロマツを 1 本も切らずに築山を整備する方針を固めた。

(平成 27 年 3 月 17 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 141

三保松原で松植樹

世界遺産富士山を学ぶ県内小学生の「ふじさん部」は 15 日、2014 年度の活動の締めくくりとして、静岡市清水区の三保松原で松の植樹を行った。

(平成 27 年 3 月 16 日 静岡新聞 朝刊)

5 か国ツバキ 150 種

アメリカやオーストラリアなど 5 か国のツバキ 150 種を集めた「世界の椿展」が 14 日、静岡市葵区アイセル21で開催された。

(平成 27 年 3 月 15 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 140

裾野市文化財に「黒岳の自然杉」

裾野市教育委員会はこのほど、愛鷹連山の最北に位置する黒岳の自然杉群落を市の文化財に指定した。直径が3mを超える樹齢 400 年前後の古木が 19 本ある。

(平成 27 年 3 月 11 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 139

14 日から浜北植木まつり

特産の植木や花などをそろえた「浜北植木まつり」が14～16日、浜松市浜北区新原のJAとぴあ浜松浜北営農緑化木センターで開かれる。14日は午前9時半からジンチョウゲなどの樹木を、15日は午前9時からアネモネなど花の苗をそれぞれ先着500人に無料で配る。

(平成27年3月10日 中日新聞 朝刊)

熱海梅まつり入園最多

熱海市の熱海梅園で開催されていた「日本一早咲きの梅」をPRする梅まつりが8日、閉幕した。1月10日から最終日までの58日間の総入園者数は20万6645人で、有料化を導入した2011年以降で最多となった。

(平成27年3月10日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 138

「坂町の寺桜」見頃

熱海市で昭和期に起きた2度の大火を生き延びた大寒桜「坂町の寺桜」が今年も力強く咲き、早くも見頃を迎えている。

(平成27年3月8日 静岡新聞 朝刊)

牧之原の児童ら 桜など遊歩道に

牧之原市大江の1～6年生の児童が7日、地元のお不動山中腹の遊歩道で、6年生の卒業を記念した植樹会を催した。

滝沢の河津桜 220本が見頃

浜松市北区滝沢町の「でんでんころ桜まつり」が7日、滝沢町の農免道路横の直売所周辺で始まった。

(平成27年3月8日 中日新聞 朝刊)

沼津御用邸公園 マツのこも外し

冬ごもりの虫がはい出るとされる啓蟄の6日、沼津市下香貫の沼津市御用邸記念公園で、愛鷹山森林組合が昨年11月の立冬にクロマツ80本に巻いたこもを外した。

(平成27年3月7日 中日新聞 朝刊)

国1松並木でこも外し

造園業者らがつくる三島環境緑化研究会は啓蟄の6日、昨年11月7日の立冬に三島市川原ヶ谷の国道1号沿いの旧東海道松並木に巻いたこもを取り外した。

(平成27年3月7日 静岡新聞 朝刊)

清流、里山守り 20 年

長泉町元長窪地区の住民でつくる「桃沢川から愛鷹山を考える会」が 1994 年の発足以来、古里の清流と里山を守る活動を 20 年以上続けている。

(平成 27 年 3 月 6 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 137

緑の大切さ訴え「樹名板」を設置

富士市立大淵一小の全児童約 730 人が 4 日、敷地内に植えてある樹木の名前と絵を記した「樹名板」を取り付けた。地元産「富士ヒノキ」で手作りした板を、樹木の幹にくくりつけたり、添え木とともに根元に立てた。県造園緑化協会と富士地区林業振興対策協議会、県グリーンバンクが協力した。

(第三種郵便物認可)



樹名板を取り付ける児童―富士市の大淵一小（写真の一部を加工しています）

富士市立大淵一小の全児童約 730 人が 4 日、敷地内に植えてある樹木の名前と絵を記した「樹名板」を取り付けた。地元産「富士ヒノキ」で手作りした板を、樹木の幹にくくりつけたり、添え木とともに根元に立てた。

緑の大切さ訴え 「樹名板」を設置

富士・大淵一小

児童に緑の大切さを知ってもらおうと行った。樹名板は141枚作り、校舎や運動場周辺に立つサザンカやクロマツ、サルスベリなどの樹木に友達と協力して取り付けた。県造園緑化協会と富士地区林業振興対策協議会、県グリーンバンクが協力した。

(平成 27 年 3 月 5 日 静岡新聞 朝刊)

「伊東小室桜」母樹が満開

伊東市吉田の萩原農園で、「伊東小室桜」の母樹が満開となった。見頃は 10 日ごろまで。大島桜と寒緋桜の雑品種で、4～5cm の大きな淡い紅紫の花を咲かせる。

はままつフラワーパーク 梅や桜が見頃

浜松市西区館山寺町のはままつフラワーパークで、約 110 品種 300 本の梅園が盛りを迎えた。早咲きの雛桜や河津桜なども見頃で、パークは春色に染まっている。

浜名湖ガーデンパーク クリスマスローズ

白色や淡紫色、淡桃色のかれんなクリスマスローズが、浜松市西区村櫛町の浜名湖ガーデンパークで見頃になった。

(平成 27 年 3 月 4 日 中日新聞 朝刊)

柿沢川沿いに 400 本 函南で桜まつり

7 日に函南町の畑毛せせらぎ公園で開かれる第 11 回かなみ桜まつりを前に、会場周辺の柿沢川沿いで河津桜が花を咲かせている。

(平成 27 年 3 月 4 日 静岡新聞 朝刊)

闘病の地へ感謝のバラ

県立静岡がんセンターの庭園内のバラ園にこのほど、新しいバラの苗が植えられた。香りがよく、白い一重の花を付ける素朴な原種のバラ「ナニワイバラ」。同センターに入院後、昨年 9 月に亡くなった神奈川県の秋葉大司さんの妻富久子さんの希望を関係者がかなえた。

(平成 27 年 3 月 3 日 静岡新聞 夕刊)

静岡ゆかりの苗木 浪江町に植え続け

東京電力福島第一原発事故から間もなく 4 年。警戒区域の福島県浪江町から袋井市に避難している蒔田美穂さんは、3 カ月に 1 回、帰宅する。その度に、静岡ゆかりの遠州産みかんや次郎柿の苗木、河津桜、ツワブキなどを植えている。

早咲き「帯桜」

島田市中央町の市民会館前にある早咲き桜「帯桜」が開花し、現在、8 分咲き。帯桜は樹齢 35 年余。高さ 7m、枝張り 12m、目の高さの幹回り 32cm で、開花時期が早く、花持ちが良いのが特徴。

館山寺桜“娘盛り”

浜松市西区協和町の協和排水路沿い約 300m にわたり、約 50 本の「館山寺桜」が見頃を迎えている。沖縄の早咲き品種「カンヒザクラ」で、はままつフラワーパークが 2001 年に地域の人たちに配布した。

(平成 27 年 3 月 3 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 134

浜名湖花フェスタ開幕

浜名湖周辺の花の観光名所で展開する「浜名湖花フェスタ2015」のオープニングセレモニーは1日、梅が見ごろを迎えた浜松市西区の大草山昇竜しだれ梅園で開かれた。フェスタは、はままつフラワーパークや浜名湖ガーデンパークを中心にした約40施設で随時開催し、6月15日まで季節の花を楽しむ。

(平成 27 年 3 月 2 日 静岡新聞 朝刊)

梅が7, 8分咲き 富士・岩本山公園

富士市岩本の岩本山公園の梅が7, 8分咲きになり、見頃を迎えている。園内にある梅園の梅は約400本。高台に位置し、眼前の富士山の眺望と、赤や白といった見頃をむかえた梅の花との共演が人気。

修善寺梅林は紅白 100 本見頃

伊豆市の観光名所として知られる修善寺梅林の梅の花が見頃を迎えている。広さ3haの丘陵地帯に植えられた約20種1000本の梅が花を咲かせている。同梅林では10日まで梅まつりを開催中。

(平成 27 年 3 月 1 日 静岡新聞 朝刊)

河津に春

早咲き桜の名所、河津町の河津桜が27日、8分咲きになった。河津川沿い4kmにわたる800本の桜並木は空から見るとピンクの帯の様。町内には8000本の河津桜がある。観光客はこの2週間で18万8千人と昨年より1割増し。

(平成 27 年 2 月 28 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 133

虫に強いマツ 500 本を住民植樹 御前崎の海岸

松くい虫などにより深刻な被害が出ている御前崎市の遠州灘海岸の保安林を復元させようと、同市と合戸町内会は、同地区内の保安林地帯で、地域住民による植樹活動を行った。

(平成 27 年 2 月 26 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 132

松並木保護に貢献 田方農高生に感謝状

清水町は 24 日、同町長沢地区の旧東海道沿いに残る松並木で樹勢が衰えた松の保護活動に当たった県立田方農高造景部に感謝状を贈った。

(平成 27 年 2 月 25 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 131

富士宮市と松崎町「日本神話」交流でゆかりの神社に植樹

「富士山の日」を記念し、神話を縁に交流する富士宮市と松崎町の友好を祈る神事が 23 日、同町の雲見漁港で営まれた。参列した住民は友好の象徴として、近くの雲見浅間神社の参道に富士宮市の花「フジザクラ」の苗木 2 本を植えた。

(平成 27 年 2 月 24 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 130

三保松原 児童ら記念植樹や清掃

23 日の「富士山の日」を前に、世界文化遺産の構成資産・三保松原で 22 日、地元住民や子供たちによる記念植樹と海岸清掃が行われた。

(平成 27 年 2 月 23 日 中日新聞 朝刊)

静岡の桜開花 来月 19 日予想

気象情報会社ウェザーニューズは「21 日までに、今春の桜の開花は東日本から西日本にかけては平年並みかやや早め、北日本はやや早めとする予想を発表した。静岡市は来月 19 日の予想。

(平成 27 年 2 月 22 日 静岡新聞 朝刊)

浜北区で椿まつり

浜松市浜北区平口、万葉の森公園のツバキ園で 21 日、「万葉椿まつり」が始まった。3 月 22 日まで。

(平成 27 年 2 月 22 日 中日新聞 朝刊)

キンモクセイ“孫の木”植樹

三島ロータリークラブは 20 日、国指定天然記念物の三嶋大社のキンモクセイの遺伝子を受け継ぐ苗木の普及に乗りだした。第 1 弾として、順天堂保健看護学部の校庭に関係者が 3 本植樹した。

(平成 27 年 2 月 21 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 129

黄金崎の松林再生へ

全国 90 大学の学生で組織する NPO 法人「国際ボランティア学生協会」の合宿が 19 日、西伊豆町内で始まった。初日は学生や NPO 法人「緑の地球ネットワーク」、宇久須まちづくり協議会のメンバーら計 10 人が参加し、塩害で生育不良に陥っている景勝地・黄金崎の松林の再生へ向けて汗を流した。

(平成 27 年 2 月 20 日 静岡新聞 朝刊)

三保松原に木製歩道

静岡市が 19 日発表した 2015 年度予算案では、世界遺産三保松原の保全・活用関連事業に約 8 億 3 千万円が盛り込まれた。松の根を保護する木製の歩道を 3 年間かけて松原内に設置するほか、情報発信拠点となるビジターセンターを含めた松原入り口周辺の整備を進める。

(平成 27 年 2 月 19 日 静岡新聞 夕刊)

緑や樹木に関する記事 128

保安林 5600 本市が無断伐採

御前崎市が、保安林に指定されている同市池新田の沿岸部のクロマツ約 5600 本を所有者である池新田財産区の同意を得ずに伐採していたことが 17 日分かった。市側は無断伐採したことは陳謝した上で、「塩害で枯れるなどした松を切り、跡地に植林する目的だった」と釈明するが、同財産区は「生きた木も多数含まれ森林法に抵触する可能性がある」と憤っている。

(平成 27 年 2 月 18 日 静岡新聞 朝刊)

姫街道の松“子孫”育てて

徳川家康によって整備された美しい松並木が残る「姫街道の松並木」の継承を目指す市の「姫まつ里親プロジェクト」が始動した。古木の遺伝子を受け継ぐ苗木を市民に育ててもらい、成長後に市が引き取って並木に移植する。

(平成 27 年 2 月 17 日 静岡新聞 夕刊)

緑や樹木に関する記事 127

あたま桜咲く糸川遊歩道 22 日までライトアップ延長

熱海市中心街の糸川遊歩道に咲くあたま桜が最盛期を迎えた。植栽されている 57 本全てが見頃になっていて、15 日に終了する予定だった夜間のライトアップを 22 日まで延長する。

(平成 27 年 2 月 17 日 静岡新聞 朝刊)

公共花壇フォーラム 次世代の担い手育成

第7回浜松市公共花壇フォーラムが16日、中区早馬町のクリエート浜松であり、日ごろ公共花壇づくりに携わる市民ら約200人が、講演や事例発表に耳を傾けた。

(平成27年2月17日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 126

伊東・大室山で山焼き

伊東市の大室山で15日、山を覆うカヤを焼き尽くす山焼きがあり、伊豆半島に春を招く炎と煙が立ちあがった。山焼きは若草を早く芽生えさせるため、鎌倉時代から続いている。

(平成27年2月16日 中日新聞 朝刊)

菜の花畑で愛 誓う

南伊豆町の休耕田を利用した菜の花畑で15日、「第15回菜の花結婚式」が開催された。

(平成27年2月16日 静岡新聞 朝刊)

富士山の外来植物 16種 9067個体

静岡県は、在来植物を駆逐する可能性のある外来植物を富士山の登山道を結ぶ3路線で調査し、16種 9067個体を確認した。

(平成27年2月14日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 125

“家康の梅”開花

徳川家康を祭る久能山東照宮で、梅が開花を迎えている。境内には家康が駿府城に植えて育てたと伝わる白梅がある。熟した実が二つに割れるため、実割梅と呼ばれ、明治時代に東照宮唐門下に移植された。

(平成27年2月13日 中日新聞 朝刊)

「大変危惧される状況」静岡労働局

静岡労働局がまとめた建設業死亡労働災害発生状況によると1月は「転落・墜落」が1件発生した。昨年11月下旬から死亡災害が急増し、ことし1月に入っても1件発生に加えカウントされない未確定災害が数件あるなど増加傾向にあり、「大変危惧される状況」と安全管理の徹底を呼び掛けている。

(平成27年2月13日 建通新聞)

県立森林公園 アカマツ林縮小

浜松市浜北区の県立森林公園とその周辺に広がる県内有数のアカマツ林が、松くい虫(マツノザイセンチュウ)の被害で急激に縮小している。

(平成 27 年 2 月 12 日 静岡新聞 夕刊)

緑や樹木に関する記事 124

河津桜まつりが開幕

早咲き桜の名所・河津町で、河津桜まつりが開幕した。河津川沿いに 4 キロに広がる 800 本の桜並木はまだつぼみで、見頃は 20 日以降になる見込み。3 月 10 日まで。

南伊豆町の青野川沿いでも 10 日、「みなみの桜と菜の花まつり」が始まった。3 月 10 日まで。

(平成 27 年 2 月 12 日 中日新聞 朝刊)

源範頼墓前にカエデ

伊豆市修善寺温泉区の住民が 11 日、同市の修善寺温泉街にある平安時代末期から鎌倉時代初期の武将源範頼の墓周辺でカエデの植樹を行った。

(平成 27 年 2 月 12 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 123

西伊豆 宇久須神社 椿寒桜が見頃

西伊豆町宇久須の宇久須神社で、2 本の椿寒桜が見頃を迎えている。カンヒザクラとシナミザクラの交配種とされる早咲きの桜で、薄いピンクの花びらが内側に丸まって咲くのが特徴。見頃は 2 月下旬まで。

(平成 27 年 2 月 10 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 122

バレンタイン 日本平動物園が熱い

14 日のバレンタインデーを前に、静岡市駿河区の日本平動物園にハート形の花壇が登場し、新たな記念撮影スポットとして人気を呼んでいる。花壇はチョコレート色で、幅が 180 cm。2 基が並ぶように設置され、ガザニア、ノースポール、ムルチコーレの 3 種類の花が植わる。

千本松原の津波築山

沼津市の景勝地「千本松原」で津波避難用の人口の山(築山)を造成する計画に住民が反対している問題で、沼津市は 6 日、クロマツの伐採本数を減らした新たな計画案をつくり、2015 年度中の完成を目指すと明らかにした。

(平成 27 年 2 月 7 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 121

桜の開花予想 静岡市は3月24日

日本気象協会は4日、全国48地点の桜(ソメイヨシノ)について、1回目の開花予想を発表した。いずれの地点もおおむね平年並みで、3月20日ごろの高知市を皮切りに四国や九州から開花が始まり、静岡市は3月24日。

(平成27年2月5日 静岡新聞 朝刊)

静岡市初の景観重要樹木指定

静岡市は葵、駿河、清水各区の樹木を1本ずつ選び、国の景観法に基づく市内初の「景観重要樹木」1～3号に指定した。葵区は中藁科小学校のイチヨウ、駿河区は石蔵院のオハツキイチヨウ、清水区は但沼神社のクスノキになった。

(平成27年2月5日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 120

あたま桜 一気に開花

熱海市中心街の糸川遊歩道で、早咲き品種の「あたま桜」が見頃を迎えている。最盛期は今週末。2日時点で57本のうち38本が五分咲き以上。

(平成27年2月4日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 119

姫街道の松並木 子孫を育てます

江戸時代からの風情をとどめる浜松市指定史跡「姫街道の松並木」の価値にあらためて光を当てようと、現存する松の遺伝子を受け継ぐ苗木を育ててもらい、並木に移植する市の「姫まつ里親プロジェクト」で2日、初の苗木植樹が松並木沿いの葵西小学校であった。

(平成27年2月3日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 118

「土木」「造園」明確化を

日本造園建設業協会と自然環境共生技術協会は、1月27日に開かれた「国立公園等整備事業の適切な執行に関する懇談会」の初会合でのヒアリングに応じ、自然公園等整備工事での総合評価方式における評価項目や競争参加資格要件の設定の在り方などについて、それぞれの意見を陳述した。

(平成 27 年 2 月 2 日 建通新聞)

竹林 農業への活用めざす

荒れた放置竹林の活用を目指す「県西部地域づくり活動支援協議会」が中心となり、浜松市内の竹林で伐採した竹を、希望する事業者に提供する取り組みを試験的に始めた。

(平成 27 年 1 月 31 日 中日新聞 朝刊)

ロウバイの花見頃

鎌倉幕府の執権北条義時の墓がある伊豆の国市南江間の北條寺で、ロウバイの花が見頃を迎えている。

(平成 27 年 1 月 30 日 静岡新聞 朝刊)

花粉ピークは 2 月下旬から

環境省は 29 日、今年のスギとヒノキの花粉飛散は、2 月下旬から 4 月上旬にかけてピークを迎えると最新の予測を発表した。スギの花粉飛散は、九州地方の一部で 2 月上旬から始まり、開始時期は全国的にほぼ例年並みと予測している。飛散量は、昨年春と比べると、四国、九州地方で少なくなると予測されるが、東北、関東、北陸、東海の各地方ではかなり多くなる見込み。

(平成 27 年 1 月 30 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 117

島田市の花、木、鳥決定

島田市は 28 日、市の花、木、鳥を、「バラ」「茶」「オオルリ」に決めたと発表した。市の花・木・鳥は 2005 年の合併以降は未制定だったことから、学識経験者や公募の市民ら 10 人でつくる制定委員会が昨年 1 月から協議を重ねて候補を選定。

(平成 27 年 1 月 29 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 116

バレンタインは「女性に花を」

バレンタインには男性から女性に花を。全国の花卉関係者が力を入れる「フラワーバレンタイン」のキャンペーンに合わせ、日本一のガーベラ産地・浜松市の生産者がガーベラの普及活動に本腰を入れている。

(平成 27 年 1 月 28 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 115

ビヤクシン樹林防火

26日の「文化財防火デー」を前に、沼津市西浦江梨の大瀬神社と市教委は25日、同神社境内にある国指定天然記念物「大瀬崎のビヤクシン樹林」を守る防火訓練を行った。

(平成27年1月26日 静岡新聞 朝刊)

里山保全など波及効果

県が2006年度から10年がかりで進めている「森の力再生事業」について、外部有識者による評価委員会は22日、事業の中間評価書を公表した。地域住民の里山保全活動の促進や異業種からの林業参入などの波及効果が出ていると評価。一方、県産材の活用促進など他の政策との効果的な組み合わせも必要だと提言した。

「復興シンボル」浜松のプラタナス

浜松大空襲の戦火をくぐり抜け、「復興のシンボル」と呼ばれる浜松のプラタナス。その木から接ぎ木して戦後70年、脈々と生きてきた苗木を、浜松の中学校の生徒らが、東日本大震災の被災地の中学へ送る取り組みが広がり始めている。

(平成27年1月25日 中日新聞 朝刊)

放置竹林生かして能、生け花コラボ

徳川家ゆかりの料亭「浮月楼」の庭園の池に静岡市葵区足久保地域で放置された竹林の竹を使った能舞台が設置された。24日にある公演「浮月シャクジ能」の舞台になる。公演は、富士市の華道家辻雄貴さんが能楽師のおはやしに合わせ、竹を使った生け花を実演する。

(平成27年1月23日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 114

おもと文化継承で文化庁長官表彰

徳川家康公が1603年の江戸開府時に江戸城に持ち込み、愛玩した園芸植物「おもと」の文化継承、発展に貢献したとして昨年12月、青木慶祐さんが受賞した。

(平成27年1月22日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 113

カエンカズラ見頃

東伊豆町の熱川バナナワニ園でカエンカズラの花が見頃を迎えている。今年の開花は例年より半月以上も早いという。南米原産のカエンカズラは鮮やかなオレンジ色で、火災を思わせることから和名が付いた。

(平成 27 年 1 月 21 日 静岡新聞 朝刊)

「あさはた緑地」敷地造成

静岡市は、麻機遊水地に計画している「あさはた緑地」の整備で、2014 年度に予定していた敷地造成工事について、15 年度に発注する見込み。設計の調整や昨年発生した台風 18 号による遊水地被害なども考慮し事業を進めていくもよう。

(平成 27 年 1 月 21 日 建通新聞)

フラワーパーク来園者過去最多

はままつフラワーパークの 2014 年度の入園者数が 12 月までの 9 か月間で約 67 万人に達した。これまで最も多かった 1991 年度の年間 66 万 4 千人を超え、過去最多を更新した。

(平成 27 年 1 月 20 日 静岡新聞 夕刊)

緑や樹木に関する記事 112

花の都 県民大会

花や緑を取り入れたまちづくりを進めようと、「ふじのくに花の都しずおか県民大会」が 19 日、静岡市駿河区のグランシップで開かれた。浜名湖花博 2014 で特別展示した景観アーティスト石原和幸さんが監修した庭園「桃源郷」もグランシップ前に完成し、お披露目式もあった。

(平成 27 年 1 月 20 日 中日新聞 朝刊)

松の樹勢回復へ 田方農高生奮闘

県立田方農高の生徒が 17 日、清水町長沢の旧東海道沿いに残る松並木で、樹勢が衰えた松を保護する作業を行った。地域住民にも呼び掛け、根に養分を与える「菌根菌」を投入した。

(平成 27 年 1 月 20 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 111

菜の花見ごろ

沼津市大平の JA なんすん大平支店前で、菜の花畑が見頃を迎えている。背景に富士山が望めるとあって、住民らが黄色に染まった花畑と富士山との共演を楽しんでいる。

果樹をたたき豊作願う

御殿場市立高根第一保育園の園児が 16 日、近所の民家で豊作を願う小正月の伝統行事「成りもっそう」を体験した。成りもっそうは、果樹を棒でたたき、立派な実を付けるよう願掛けする行事。

(平成 27 年 1 月 17 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 110

県建設産業団体連 賀詞交歓会

県内の土木・建設業関連 32 団体でつくる県建設産業団体連合会は 14 日、静岡市葵区で賀詞交歓会を開いた。団体に加盟する企業や県内選出の国会議員、県議ら 220 人が参加。木内会長は「住民の安全を確保するためには、社会資本整備を進める必要がある。技術者の高齢化が進む中、若い担い手の確保や育成に取り組みたい」と呼びかけた。

(平成 27 年 1 月 15 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 109

森岡の家 十分な耐震性

県建築士会は 13 日、江戸末期から明治期の建造物や巨木が残る浜松市の施設「森岡の家」に関して「適切とは言い難い耐震性能評価をもとに解体されようとしている」として、解体関連予算の執行見直しや施設存続を協議する場の設置を求める提言書を市に提出した。

(平成 27 年 1 月 14 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 108

公園保全 学生らが定期的管理

三島市の NPO 法人グランドワーク三島が、地域の高齢化で管理の担い手不足になっている公園の保全に取り組んでいる。定期的に学生やボランティアが草刈りなどを行うことで、地域の継続的な関わりを促す。

(平成 27 年 1 月 13 日 静岡新聞 朝刊)

熱海梅まつり開幕

熱海市の熱海梅園で 10 日、梅まつりが開幕した。園内の早咲き梅は一部咲きほどで、咲き始めたが、初日から大勢の観光客が詰め掛け、楽しんでいる。

(平成 27 年 1 月 11 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 107

バラいっぱい運動 花壇に苗植え付け

みどりいっぱい富士市民の会が推進する「バラいっぱい運動」の一環として、富士ばら会は8日、富士市の広見小の花壇にバラの苗を植えた。

(平成27年1月9日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 106

若菜を摘んで七草がゆ

一年の無病息災を祈り、七草がゆを無料で振る舞うイベントが7日、浜松市西区館山寺町のはままつフラワーパークで開かれた。

(平成27年1月8日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 105

長楽寺庭園 夫婦で再生

遠州三名園の一つに数えられ、ドウダンツツジの名所として知られる浜松市北区細江町の長楽寺の庭園「満天星の庭」。一時期荒廃していたが、山口和章さんとまり子さん夫婦がよみがえらせた。

「あたま桜」早くも開花

熱海市が「日本で最も早く咲く桜」としてPRしている市の木「あたま桜」が6日までに、市内各地で開花した。まだ咲き始めの状態で、見頃は例年並みの今月下旬～2月上旬になる見込み。

(平成27年1月7日 静岡新聞 朝刊)

ロウバイ見頃

ろうそくのような質感の黄色い花を咲かせるロウバイが、浜松市南区の市緑化推進センターで見ごろを迎えている。日当たりのよい場所は満開で、来園者を楽しませている。

(平成27年1月7日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 104

土肥桜の名所誕生期待

伊豆市小下田地域の住民有志が、富士市の釣具店や地元の造園業者と連携し、早咲きの「土肥桜」の苗を恋人岬駐車場に植樹した。

(平成27年1月6日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 103

早咲き桜須崎乙女開花

下田市の須崎半島で3年前から早咲きの桜を植えているお年寄りがいる。昨年12月下旬には、地元にある「原木」から接ぎ木して植えた苗木が、ピンク色の小さな花を初めて咲かせた。

(平成27年1月5日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 102

「桜山」再興計画が本格化

熱海市桃山町のMOA美術館と周辺4町内会による「美しい桜の散歩道」運動が25日、本格始動した。第1弾として来年2月までに4種類の桜の苗木計100本を植樹し、数年後までにJR熱海駅裏側の山の手一帯の「桜山」を再興させる計画。

(平成26年12月26日 静岡新聞 朝刊)

シクラメン

浜名湖ガーデンパーク 百華園の中に青色のシクラメン「セレナーディア」アロマブルー500株による「青いシクラメンの小径」がお目見え。2月いっぱいまで。

チューリップなど

はままつフラワーパーク 1月1日から2月上旬まで、入り口周辺にチューリップや早咲きの菜の花などを飾る。

ポタン

可睡斎 1月1日から室内ポタン庭園が開かれる。3月15日まで。

カーネーション

かわづカーネーション見本園 研究用の栽培温室で約360品種1万3000株が見学できる。5月10日まで。

(平成26年12月26日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 101

三保の松枯れ改善

松枯れ対策が課題となっている世界遺産の三保松原で、マツ材線虫病対策の目安となる枯木の伐採本数が4~11月で120本となり、昨年同時期の630本から大幅に減ったことが分かった。静岡市は「薬剤散布に無人ヘリコプターを導入した効果が出始めた」と話している。

(平成26年12月25日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 100

工場緑地率、全町緩和へ

県は来年度から、県内すべての町を対象に、条例で工場新增設時の敷地内の緑地率を緩和する。規制緩和により企業誘致促進を目指す。県内 12 町と合意済みで、来年の県議会 2 月定例会で条例案を提出する方針。

(平成 26 年 12 月 23 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 99

「藤浪造園」カーボン・オフセット実施し環境保護に一役

藤浪造園は、低炭素社会構築と地域の環境活動支援を目指した取り組みとして、年間事業活動によって排出される温室効果ガス全量につき「カーボン・オフセット」を行った。造園業者として、静岡県内と東日本大震災の被災地である福島県のクレジット 2 種類を用いた事例は県内初となる。

(平成 26 年 12 月 22 日 建通新聞)

水仙まつり爪木崎で始まる

下田市の須崎半島にある爪木崎で 20 日、「第 49 回水仙まつり」が始まった。爪木崎には 10 万㎡の敷地内に 300 万本のスイセンが植えられていて、今年は例年より 10 日ほど早く三分咲きを迎えた。

(平成 26 年 12 月 21 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 98

徳川家康ちなみ「そぎ」門松飾る

徳川家康にちなんだ門松が 18 日、浜松市南区の市緑化推進センターにお目見えした。難敵の武田信玄を斬ると念じて、竹の先端を斜めに切った「そぎ」と呼ばれる形で、縁起がよいとされる「末広寸法」を取り入れたり、縄も松結びしたりしている。

(平成 26 年 12 月 19 日 中日新聞)

緑や樹木に関する記事 97

献上梅を切り取り

熱海市は 17 日、皇室に献上する熱海梅園の紅白梅の枝切りを行った。天皇誕生日に合わせ、22 日に市職員が宮内庁に持参する。園内で育てられている早咲きの紅梅「八重寒紅」と白梅「冬至梅」から、献上に適した枝をそれぞれ 10 本ずつ選出。

(平成 26 年 12 月 18 日 静岡新聞 朝刊)

平成 26 年度「樹木医」認定者決まる

本年度で 24 回目を迎えた樹木医研修は 10 月 25 日に終了し、11 月 5 日に開催された樹木医制度審議会において 116 名が合格、樹木医として認定されました。樹木医認定者は本年度の認定者を加え 2,443 名(女性 218 名)となりました。ちなみに本年度の静岡県の認定者は 4 名でした。

(グリーン・エイジ 12 月号 通巻第 492 号)

緑や樹木に関する記事 96

清水区三保の「命山」整備

静岡市は、清水区三保へ整備する「命山」を早ければ 2015 年 1 月中旬、遅くとも 2 月上旬には総合評価方式で公告する予定。津波避難施設として、市で初めて築山形式。土木工事として発注し、15 年 9 月末の完成を現時点では予定している。

駿府城公園桜植樹

静岡市は、駿府城公園の「桜の名所」づくり事業で、桜の植樹工事と照明設備工事を 2015 年 1 月ごろに発注する。植樹は、紅葉山庭園前の広場と東御門前の広場を中心に、高さ 4.5m 幹周囲 25cm 程度の桜の木 100 本を予定している。

(平成 26 年 12 月 17 日 建通新聞)

緑や樹木に関する記事 95

藤枝市の瀬戸谷地区 もえるツリー

藤枝市瀬戸谷地区の集落で、樹齢 200 年、高さ 30m のイチヨウの木をイルミネーションで飾る恒例の「峠のツリー」が今年も始まり、山里のクリスマスツリーとして輝いている。

(平成 26 年 12 月 13 日 中日新聞 朝刊)

フラワー&グリーン市場に関する調査結果 2014

矢野経済研究所は国内のフラワー&グリーン市場について調査を実施。2014 年の花卉小売市場は前年費 99.8% の 1 兆 348 億円と縮小の見込み。これは、国内景況感に対する懸念から法人、個人ともに花卉需要が低迷しているため。

(平成 26 年 12 月 15 日 環境緑化新聞)

緑や樹木に関する記事 94

静岡市 第 2 次環境基本計画案示す

静岡市は、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進する「第2次静岡市環境基本計画(案)」をまとめた。施策として緑化推進や公園緑地の整備、省エネルギー施設・設備の導入促進、再生可能エネルギー設備導入の普及などを盛り込んでいる。

(平成26年12月5日 建通新聞)

御殿場 秩父宮記念公園で講座

御殿場市の秩父宮記念公園はこのほど、テレビ番組などで活躍する園芸研究家、矢沢秀成さんを講師に招き、花の苗、球根の植え方を学ぶ講座を同公園で開いた。

(平成26年12月5日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 93

ヒマラヤザクラ 寒風に耐え開花

ネパールの故ビレンドラ元国王から贈られた種から育てた複数のヒマラヤザクラが、熱海市の渚親水公園や県立熱海高下の斜面などで開花している。寒風に耐えながら咲く季節外れの桜を市民や観光客が楽しんでいる。

(平成26年12月4日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 92

三保松原・松林保全策

三保松原の松林の保全策を協議してきた「三保松原の松林保全技術会議」が提言書をまとめ、座長の近藤誠一前文化庁長官らが2日、県庁で県と市が新たな実行委員会を設け、提言に沿った対応を進める方針を示した。

(平成26年12月3日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 91

ジオ散策へ遊歩道延伸 長泉町計画

長泉町が1日、伊豆半島の世界ジオパーク認定を視野に、富士山を望みながらジオポイントを楽しむ黄瀬川沿い遊歩道を延伸するなどの計画を示した。

(平成26年12月2日 静岡新聞 朝刊)

県立森林公園「スタンプラリー&クイズ」

同公園「森の家」や「日帰り天然温泉あらたまの湯」など6施設にスタンプ台に設けている。全スタンプをそろえてクイズに挑戦すると、全問正解者の中から抽選でペアの宿泊券、食事券などの賞品が当たる。

はままつフラワーパーク 華やかにクリスマスライブ

浜松市西区館山寺町のはままつフラワーパークで毎週末、華やかな電飾に包まれた「クリスマス・ナイトコンサート」が開かれている。

(平成26年11月29日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 90

「三島梅花藻の里」保全 市が湧水地買い取りへ

隣接する湧水地に宅地造成計画が持ち上がっている三島市南本町の「三島梅花藻の里」について、市は、16日、湧水地のある土地を買い取り、三島梅花藻の里と一体的な親水公園として整備する方向性を示した。

(平成26年11月27日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 89

富士山こどもの国 浜名湖ガーデンパーク 指定管理者継続へ

県は25日、2015年度から5年間の県営都市公園の指定管理者候補として、県富士山こどもの国に小泉アフリカ・ライオン・サファリを、浜名湖ガーデンパークに浜名湖えんてつグループをそれぞれ選定したと発表した。

(平成26年11月26日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 88

伊豆の修善寺虹の郷 30日までライトアップ

伊豆市の修善寺虹の郷でこのほど、紅葉の季節に合わせた夜間イベント「もみじライトアップ」が始まり、連日多くの来園者で賑わっている。

(平成26年11月24日 静岡新聞 朝刊)

浜北区・万葉の森公園 燃える紅葉

浜松市浜北区平口、万葉の森公園で紅葉が見ごろを迎え、22日、多くの来園者で賑わった。

(平成26年11月23日 中日新聞 朝刊)

北区の龍潭寺 庭園ライトアップ

浜松市北区引佐町の龍潭寺にある国指定名勝記念物の庭園をライトアップする「秋の夜間特別公開」が21日始まった。

(平成26年11月22日 中日新聞 朝刊)

県景観賞「大社の杜 みしま」最優秀

県は21日、第7回県景観賞の受賞地区を発表した。最優秀賞の県知事賞に、まちなみ部門の「大社の杜 みしま」を選んだ。ほかに優秀賞は静岡ガス本社ビル、プラザヴェルデ、伊豆のPATCH状里山の風景、森ボラが進める伊豆高原の竹林整備と地域交流。

(平成26年11月22日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 87

伊東の湖畔 紅葉見ごろ

伊東市の一碧湖畔で、紅葉が見ごろを迎えた。湖をぐるりと一周する遊歩道沿いにイチョウやモミジ、ケヤキなどが多い。見ごろは12月初旬まで。

(平成26年11月21日 中日新聞 朝刊)

富士登山道 モミジ植栽

富士宮市は20日、市内の富士登山道で、「彩りのある街道づくり事業」を行った。地元のNPO富士山自然の森づくりに委託し、モミジの苗木150本を植えた。固有種を尊重しようと、富士山に自生するモミジの種を採取し、栽培した苗を植栽した。

(平成26年11月21日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 86

浜名湖ガーデンパーク 深まる紅葉

浜松市西区村櫛町の浜名湖ガーデンパークで、落葉樹の紅葉が深まっている。水路沿いでメタセコイヤやラクウショウなどのスギ類が茶褐色に染まり、晩秋から初冬の雰囲気。

(平成26年11月20日 中日新聞 朝刊)

知事が「さくらの名所散策路」視察

川勝平太知事は18日夕方、熱海市内唯一の高校である県立熱海高とJR伊豆多賀駅を結ぶ新たな通学路「さくらの名所散策路」の工事現場を視察した。

(平成26年11月20日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 85

袋井市 みつかわ夢の丘公園整備

袋井市は、新たに計画する市営墓地公園・みつかわ夢の丘公園整備事業として、2015年1月以後に東側幹線園路整備や給水施設、上団墓地周辺整備などの工事発注を予定している。計画では、墓園ゾーン 2.7ha、公益ゾーン 0.8ha、公園ゾーン 6.4ha、自然環境ゾーン 13.2ha からなる。

(平成 26 年 11 月 19 日 建通新聞)

緑や樹木に関する記事 84

蒲ザクラ 30 日に植樹祭

浜松市東区蒲地区の住民でつくる「蒲ザクラの里実行委員会」は 30 日、蒲ザクラ植樹祭を同区西塚町のサーラプラザ浜松で開く。蒲ザクラは、浜松市東区と南区にまたがる荘園「蒲御厨」で生まれ、源平合戦で活躍した武将源範頼が、埼玉県北本市に植えたとされる。

(平成 26 年 11 月 18 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 83

遠州灘海岸に 300 本

防災や環境保護に役立てようと、浜松市南区の遠州灘海岸で 16 日、市民らが防潮林の苗を植樹した。浜松市の NPO 法人縄文楽校が企画。協賛企業や寄付金などで費用を賄い、津波などに耐える防潮林づくりを進めている。

(平成 26 年 11 月 17 日 中日新聞 朝刊)

色づく紅葉、まつり開幕

「日本一遅い紅葉の名所」とPRしている熱海市の熱海梅園で 15 日、もみじまつりが開幕した。今月末から 12 月上旬に見ごろを迎えるという。また、早くも梅の初開花が確認された。

(平成 26 年 11 月 16 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 82

「森岡の家」存続目指す「市民の会」結成

廃館になり駐車場となる予定の浜松市の施設「森岡の家」の古い屋敷や巨木の存続を求める有志市民らが 13 日、「森岡の家」市民の会を設立し、市役所で記者会見した。歴史や建築などの専門家チームが活用方法などを検討し、市側に存続を訴えていく。

(平成 26 年 11 月 14 日 中日新聞 朝刊)

沼津市長、「築山」予定地視察

沼津市の栗原裕康市長は 13 日、市が同市本で進める津波避難用の人工高台「築山」の建設に伴って千本松原の松を伐採する計画に対し、見直しを求めている沼津牧水会の関係者や、植物の専門家と建設予定地を視察した。視察後、築山ののり面などに芝生を整備する計画を一部変更し、できるだけ広い範囲に松を含めシイやカシなどの木を植樹する方針を明らかにした。

(平成 26 年 11 月 14 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 81

ダイヤモンドリリー見頃

掛川市原里の加茂荘花鳥園で、花びらがヒガンバナに似たダイヤモンドリリーが見ごろを迎えた。今月末まで展示会をしている。南アフリカ原産のヒガンバナ科の球根草で、日の光を受けると花卉がダイヤモンドのように上品にきらきらと輝いて見えるのが名前の由来。

(平成 26 年 11 月 12 日 中日新聞 朝刊)

千本松原の整備活動

県東部農林事務所はこのほど、沼津市の千本松原の松林の環境美化活動を地域住民やボランティアと実施した。千本松原の景観を守るため、同事務所と「千本悠久の森づくり協定」を結んでいる六軒町自治会等約 250 人が参加した。

(平成 26 年 11 月 12 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 80

病虫害駆除へ こも巻き

三島市川原ヶ谷の国道 1 号の松並木で、市内の造園業者でつくる三島環境緑化研究会がこも巻きを実施した。全長 1km の並木道の両側で約 190 本を整備し、越冬に向けて作業に取り組んだ。

(平成 26 年 11 月 11 日 静岡新聞 朝刊)

絶滅危惧種「ハタベカンガレイ」 消滅危機

浜松市中区の小河川「中途川」に自生する絶滅危惧種「ハタベカンガレイ」が、河川改修の影響で自生地が消えかねない危機に陥っている。

(平成 26 年 11 月 10 日 静岡新聞 夕刊)

緑や樹木に関する記事 79

麻機遊水地の「あさはた緑地」敷地造成を 1 月発注

静岡市は、麻機遊水地第 1 工区内に計画している「あさはた緑地」の整備に着手する。2015 年 1 月ごろに敷地造成工事を発注する予定。現時点では、工事を 17 年度までの 4 か年で進める計画。10～17 年度までの事業費は約 12 億円を見込んでいる。計画ではセンターハウス、自然観察路、デッキ、わんぱくの森などを整備していく。

(平成 26 年 11 月 5 日 建通新聞)

三保松原「5 年で改善」

世界文化遺産の富士山の構成資産、三保松原の保全を考える県の技術会議は 4 日、県庁で最終会合を開き、現在は 1ha 当たり年間 24 本に上る松枯れ被害を、5 年後までに年間 2 本以下に抑える方針を確認した。データベースを整備して約 3 万本のマツを個別管理するほか、土壌改良や観光客の立入りを制限して、マツの生育環境を改善するなど、具体的な方策を 12 月初旬にも川勝平太知事に提言する。

(平成 26 年 11 月 5 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 78

色鮮やかな菊花作品並ぶ

伊豆市の修善寺虹の郷で 10 日まで、「菊花まつり」が開かれている。園内の伊豆の村と日本庭園には、黄、オレンジ、ピンクなどの色鮮やかな小菊やスプレー菊を使い、華やかに飾り付けられた作品が並ぶ。

(平成 26 年 11 月 3 日 静岡新聞 朝刊)

都市緑化 在来植物で 業界が認証制度

都市緑化で植える植物として、もともと生育していた在来植物を選ぶなど、どこでも画一的にならないよう生物多様性に配慮した施設を認証する制度が始まった。民間企業が集まって昨年発足した一般社団法人「いきもの共生事業推進協議会」が進めている制度で、「大手町タワー」、「横浜ビジネスパーク」、「大名古屋ビルヂング」など 1 都 3 県の計 11 施設が認証された。

(平成 26 年 11 月 3 日 静岡新聞 朝刊)

浜松市公園緑地協会 不法投棄 職員ら 11 人不起訴

一般社団法人「浜松公園緑地協会」が市からの委託業務で出た産業廃棄物を都市公園に捨てたとされる問題で、静岡地検浜松支部は 31 日、産業廃棄物処理法違反(不法投棄)の疑いで書類送検された法人としての協会と当時の職員ら 11 人をいずれも不起訴とした。

(平成 26 年 11 月 1 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 77

雌雄決める遺伝子 京大がカキで発見

男木と女木が分かれている植物で雌雄を決める遺伝子を、京都大の赤木剛士助教のグループがカキの木で発見した。雌雄を育て分けることで果実をつける女木を増やし、多くの収穫につなげる可能性がある。

(平成 26 年 10 月 31 日 中日新聞 朝刊)

三島 楽寿園で菊まつり開幕

三島市一番町の楽寿園で 30 日、「菊まつり」が開幕した。11 月 30 日まで様々な菊の展示が行われる。会場では東海菊花大会が開催中で、約 400 株を展示している。14 日までは栽培技術相談所や即売所も設けている。

(平成 26 年 10 月 31 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 76

校庭の全面芝生化完成 島田工業高校

島田市の県立島田工業高で 29 日、グラウンドの全面芝生化が完成した。県環境ふれあい課と県芝草研究所の協力を受けて 6 月から取り組んできたプロジェクト。地域住民に対する砂じん対策として始めた活動で、丈夫で低コストな芝生作りを研究する県と連携した。

(平成 26 年 10 月 30 日 静岡新聞 朝刊)

鮮やかコスモス見頃 珍しい淡い黄色

浜松市西区村櫛町の浜名湖ガーデンパークで、秋を彩るコスモスの花が鮮やかに咲きそろう。園内の各所で赤、白、ピンクと華やかに競演。中でも、直径 7cm ほどで淡い黄色の花が咲くイエローキャンパスが、人気を呼んでいる。

(平成 26 年 10 月 30 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 75

古溪荘の庭園一般公開

富士市は 11 月 22 日、同市岩淵の国重要文化財「古溪荘」の庭園を一般公開する。公開は 6 年ぶり。入場無料。古溪荘は当時の宮内大臣・田中光顕の別荘で、1909 年に完成した。約 18,000 m²の敷地内に、合せて 9 棟の木造建築が回廊で結ばれている。

(平成 26 年 10 月 29 日 静岡新聞 朝刊)

花飾りハンギングバスケット普及へ

かごに鉢植えを入れ壁などに飾る「ハンギングバスケット」の指導員らが参加した日本ハンギングバスケット協会全国マスター会が 28 日、静岡市清水区の日本平ホテルで開かれた。

(平成 26 年 10 月 29 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 74

丸み帯びた菊で“富士山アート”

世界遺産富士山を仰ぐ富士宮市下条の畑で、丸みを帯びた菊「クッションマム」で表現した“富士山アート”が見頃を迎えている。アートは縦25m、横30m。黄、赤、白色の計 800 株を配置し、雪化粧した末広がりの霊峰を浮かび上がらせている。

(平成 26 年 10 月 27 日 静岡新聞 朝刊)

約 6 割は法違反 目立つ墜落・転落事故

静岡労働局は、ことし 7 月に実施した建設現場重点監督の結果を明らかにした。監督した 184 の建設現場のうち、何らかの法違反があったのは全体の約 6 割に上った。法違反の状況を見ると、墜落・転落関係が多くなっている。「足場の手すり等墜落防止対策」が 41、「作業床の端や開口部の墜落防止対策」が 21 だった。

(平成 26 年 10 月 24 日 建通新聞)

緑や樹木に関する記事 73

「バガテル公園」解散へ 河津町財政を圧迫

河津町峰の観光バラ園、河津バガテル公園などを管理・運営する第三セクター「河津バガテル公園」は 21 日、臨時取締役会を開き、同社を近く事業停止し、解散手続きに入る方針を固めた。2014 年度経常損失予想が前年度より 800 万円余り膨らんで 1398 万円赤字となる。

(平成 26 年 10 月 22 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 72

掛川 市民ら 500 人 海岸防災林の草刈り

掛川市の「希望の森づくり」事業で、遠州灘沿いの浜野、沖の須海岸の防災林に植えた木々を守るための「希望の森づくり 育樹祭」が 19 日あり、市民が草刈り作業などに汗を流した。

(平成 26 年 10 月 20 日 中日新聞 朝刊)

浜松花と緑の祭2014開催

「浜松花と緑の祭2014」が18日、19日アクト通りで開催された。62団体が苗木を販売する「花と緑の出展」、造園業者の競演によるガーデニングショー、フラワーアレンジメント体験など、多彩な催しが繰り広げられた。

(平成26年10月19日 中日新聞 朝刊)

三島 みどりまつり開催

花と緑の祭典「第76回三島みどりまつり」が18日、19日三島市長伏公園で開催された。園芸店や造園業社など14店舗が花や植木など約2万点を並べ、即売。

富士宮 緑化祭花木市など5イベント

富士宮市「緑化祭」「林業祭」など5イベントが18日、19日市役所で開催。季節の花木や盆栽、園芸用品の展示販売、富士ヒノキを用いた親子木工教室など。

(平成26年10月19日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 71

樹木医の塚本さん講演

華道家元池坊県連合支部教授者研究会の講演会が15日、浜松市楽器博物館であった。はままつフラワーパークを運営する市花みどり振興財団の塚本こなみ理事長が「樹のいのち樹のころ」の演題で講演した。

(平成26年10月16日 中日新聞 朝刊)

ススキの名所 見頃これから

東伊豆町の「稲取細野高原」で今月下旬から11月上旬にかけてススキが見頃を迎える。1日に開山したものの、台風続きで入山者は少なめ。標高400m～800mに広がる細野高原は面積125haは東京ドーム26個分。

(平成26年10月16日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 70

富士 花苗や庭木など1万点を販売

第86回緑と花の百科展が12日、富士市中央公園で開かれた。市内25団体が花苗や庭木、観葉植物など1万点を廉価販売し、好みの花を買い求める大勢の来場者でにぎわった。

(平成 26 年 10 月 15 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 69

幻の「黄色いアサガオ」

自然科学研究機構基礎生物研究所やサントリーなどのグループは 10 日、黄色いアサガオを咲かせることに成功したと発表した。黄色いアサガオは江戸時代の図譜に残っているが、現在はなく「幻のアサガオ」と呼ばれている。

(平成 26 年 10 月 11 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 68

沼津・築山建設住民が署名提出

沼津市が津波避難用の人工高台「築山」を建設するのに伴い、千本松原の松を伐採する計画を受け、伐採の見直しを求めている地元住民らが、9 日、市役所に市長を訪ね、賛同する 1744 人分の署名を提出した。

(平成 26 年 10 月 10 日)

浜名湖花フェスタ来年 3 月開幕

浜名湖花博 2014 を引き継ぐ「浜名湖花フェスタ」が来年 3 月 1 日～6 月 15 日、花博会場のはままつフラワーパークを主会場に開催される。関係団体で組織する実行委員会が 9 日、イベントの概要を発表。フラワーパークでがチューリップやサクラの展示で花博を超える充実度となることを明らかにした。

(平成 26 年 10 月 10 日)

緑や樹木に関する記事 67

人の手で松原保全 重要

日本総合研究所の藻岩浩介氏が静岡市葵区で講演。松葉は火力が強く、かまどや風呂のたきつけに重宝されてきたため松原が守られてきたことを説明。石油や電気の普及で使われずに放置され、腐葉土化した松葉が松の育成を阻害する悪循環を指摘した。

(平成 26 年 10 月 8 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 66

三保松原 バス規制でも減らぬ渋滞

世界文化遺産の三保松原に隣接する観光バス用駐車場が9月末で閉鎖された。大型バスが周辺の松並木を傷めるのを防ぐための措置で、バス駐車場は松並木の入り口に移転した。ただ、休日には松原に向かう道路は渋滞し、周辺住民の生活環境は悪化。一般車を与えるマツへの悪影響も懸念されるため、すべての車の規制を求める声も上がっている。

(平成26年10月6日 中日新聞 朝刊)

島田からバラ新種

島田市野田の市ばらの丘公園で4日、バラの新品種「帯姫」の記念植樹セレモニーがあり、来園者にレモン色の優しい色合いの花がお披露目された。島田生まれのバラとしては、ミスシマダ、メモリー・オブ・シマダ、ハートフルに続く4種類目。

(平成26年10月5日 中日新聞 朝刊)

クロマツ90本伐採計画

沼津市本に津波避難用の人工高台「築山」を建設する同市が、予定地にある千本松原のクロマツ90本の伐採を計画している。3日の市議会地震・津波対策調査特別委員会で説明した。一部住民は「松を伐採せずに住民の命を守る方法はあるはず」と松を保存できるよう設計の見直しを要望している。

(平成26年10月4日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 65

森岡の家「マツの巨木保存を」

廃館になり駐車場となる予定の浜松市の施設「森岡の家」の古い屋敷や巨木の存続を訴える市民グループが30日、施設の解体や樹木の伐採のための関連予算の執行凍結などを求める要望書を鈴木康友市長や大見芳市議会議長宛に提出した。

(平成26年10月1日 中日新聞 朝刊)

富士霊園 G デザイン賞

小山町大御神の富士霊園がこのほど、日本デザイン振興会主催の2014年度グッドデザイン賞を受賞した。自然と調和した空間を造り上げてきた点が評価された。

(平成26年10月2日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 64

全国花のまちづくり 浜松市が優秀賞

農林水産省と国土交通省が提唱する「全国花のまちづくりコンクール」の本年度入賞者が26日、発表され、市町村部門で浜松市が優秀賞に選ばれた。浜松市は地域の特性を生かした花壇づくりを長年

継続していることに加え、「浜名湖花博 2014」など大規模な花と緑のイベントを 10 年間で 3 回も開催した実績が評価された。

(平成 26 年 9 月 27 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 63

奇跡のクスノキ「処置必要」

静岡市街地を焼き尽くした静岡空襲の 3 年後に再び芽吹き、現在も同市葵区の静岡赤十字病院前にそびえる「奇跡のクスノキ」。日本樹木医会県支部は、24 日樹木診断を行なった。診断の結果、クスノキは根の張り具合が悪く、放置すると立枯れする恐れが高く、土壌改良などが必要と指摘された。

(平成 26 年 9 月 25 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 62

貴重マツ「保存」「森岡の家」跡地、浜松市が駐車場計画

廃止された市の施設「森岡の家」(浜松市浜北区貴布祢)の跡地を駐車場にするため、市は敷地内のマツの大木を切り倒す方針。市民からは、歴史あるマツの保存を求める声が上がりはじめている。「森岡の家」は静岡で銀行の基礎を築いた旧平野家が暮らした邸宅。庭には 15m ほどのマツの高木をはじめ、イチヨウやヤマモモ、竹林が点在する。

(平成 26 年 9 月 20 日 中日新聞 朝刊)

膨らむ労務単価 県発注事業に影

県の建設事業で工事費を増額するケースが相次いでいる。作業員の労務単価の上昇が主な要因で、背景には東日本大震災の復興事業や東京五輪に向けた建設需要増による人出不足などがあるとみられている。

(平成 26 年 9 月 22 日 静岡新聞 夕刊)

フラワーパーク大温室 東屋に七草やススキ

はままつフラワーパークは、大温室クリスタルパレスを「秋の夜長に・・・」と銘打った装飾に衣替えした。秋の七草などに囲まれた日本庭園風の東屋を中心に置き、深まる秋を演出。

(平成 26 年 9 月 23 日 中日新聞 朝刊)

牧之原市花の会、最高評価

カナダ・シャーロットタウンで行われた本年度の「花もまちづくり国際コンクール」に参加した牧之原市花の会が、国際部門で最高評価の「5つの花」を獲得した。同会の地域を巻き込んだ花のまちづくりの取り組みが評価された。

(平成 26 年 9 月 24 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 61

熱海 MOA美術館と4町内会 桜植樹へ

熱海市桃山町のMOA美術館と周辺4町内会(桃山、桃山台、伊豆山岸谷、仲道)が、JR熱海駅裏側の山の手一帯を「桜山」として再興する「美しい桜の散歩道」運動を開始した。庭や自宅敷地内に桜を植えてもらうよう、4町内会の住民に協力を呼び掛けている。

(平成26年9月19日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 60

農業用重機 盗難相次ぐ

県東部、西部で7月下旬から農業用重機が盗まれる被害が相次いでいる。トラクター、バケットローダーなど1台数百万円する高価な重機が被害に遭っている。県警によると、7月下旬から9月15日までに県東部中心に16件17台の重機が盗まれる被害が確認されている。

(平成26年9月17日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 59

焼津 石津海岸公園完成

焼津市石津の駿河湾沿いに、芝生広場やグランドゴルフなどの出来る多目的広場を備えた広さ34000㎡の石津海岸公園ができた。小川港南側の海拔8.1mの防潮堤沿いで、幅約60m、縦長に600mほど延びる。

(平成26年9月13日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 58

有毒 イヌサフラン食べ死亡

県東部の70台の男性が園芸用植物で有毒成分が含まれているイヌサフランを誤って食べ、死亡した。男性は自身の畑でギョウジャニンニクと間違えて栽培したイヌサフランの葉を他の野菜と煮込んで食べた。イヌサフランには花、葉、球根のいずれにも有毒物質コルヒチンが含まれていて、体重50kgの人が4.3ミリグラム体内に入れると致死量になる。

(平成26年9月10日 静岡新聞 朝刊)

希少フルーツ ポポー量産成功

北米原産の果物「ポポー」の量産化に静岡市清水区興津中町の望月史さんが成功した。ポポーはバンレイシ科の果物で、春に花を咲かせ、秋に黄緑色の実を付ける。果肉は甘味に富んだ濃厚な味わいが特徴で「森のカスタードクリーム」とも称される。

(平成 26 年 9 月 10 日 静岡新聞 夕刊)

西伊豆 キバナコスモス見頃

西伊豆町宇久須の黄金崎公園にある花畑で、キバナコスモスが見頃を迎えている。約 900 m²の石積み畑でオレンジ色の花が観光客や地元住民の目を楽しませている。見頃は 9 月下旬まで続く。

(平成 26 年 9 月 11 日 静岡新聞 朝刊)

花博効果 124 億円

県は浜名湖花博 2014 の経済波及効果を約 124 億円と算出し、花博実行委員会の最終会合で報告した。来場者の宿泊費や飲食費、土産代などの消費効果が 91 億円と最も多かった。会合では、来場者が想定より増えたことによる実行委員会の決算剰余金約 2 億円を、県の「花博基金」に組み入れることで合意した。剰余金は、グランシップ敷地内広場への庭園整備、浜名湖ガーデンパークに県産の花を使った花壇、プラザヴェルデでも花のある暮らしをテーマにした展示を行う方針。

(平成 26 年 9 月 12 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 57

牧之原と花壇アピール

牧之原市は 5 日、15 日からカナダで開かれる「花のまちづくり国際コンクール」に参加する牧之原市花の会に市旗を授与した。コンクールは北米や欧州から 100 団体以上が参加する予定。同花の会は昨年、全国花のまちづくりコンクールで「花のまちづくり大賞・国土交通大臣賞」を受章している。

(平成 26 年 9 月 6 日 中日新聞 朝刊)

シカ駆除に硝酸塩入り餌

県森林・林業研究センターの研究チームがこのほど、県内で農作物や自然生態に被害を与えて問題になっているニホンジカに、硝酸塩入りの餌を食べさせて駆除する新技術を開発した。土壌に存在し、食品添加物である硝酸塩を使い、反芻動物に有効な仕組み。あらゆる動物に効いてしまう毒物やホルモン物質を使うよりも生態系への影響が小さい。

(平成 26 年 9 月 7 日 静岡新聞 朝刊)

ミシマバイカモ保全へ 募金で買収目指す

三島市の清流のシンボルである水生植物「ミシマバイカモ」が群生する三島梅花藻の里の水源を守ろうと、地元のNPOグランドワーク三島が募金活動を始めた。今年に入り、水源を含む土地で宅地造成計画が進行したことから、水源の土地の買い取りを目指す。

(平成 26 年 9 月 9 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 56

伊豆シャボテン公園でパンパスグラス見頃

伊東市富戸の伊豆シャボテン公園でパンパスグラスが見頃を迎えている。同公園ではピラミッド温室や駐車場付近などに計約 180 株が植栽されている。見ごろは 10 月ごろまで続くという。

(平成 26 年 9 月 5 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 55

静岡市麻機遊水地に農園やカフェ検討

県、静岡市、民間団体が麻機遊水地で散策路や花壇、福祉農園などを整備しようと検討を進めている。遊水地周辺の医療機関や福祉施設、特別支援学校の関係者や地域の住民らの憩いと交流の場にする狙い。カフェや日用品、地場製品の販売所が入る施設の設置構想も浮上している。

(平成 26 年 9 月 1 日 静岡新聞 夕刊)

緑や樹木に関する記事 54

三保松原 県が保全策

世界遺産三保松原の松林保全策を話し合う有識者の技術会議が 25 日、開かれ県が保全策の提言案を示した。マツノザイセンチュウの防除に関する目標値設定に加え、保全する松の個体管理や生育に適した土壌環境づくり、地域で松を守るための「保全センター」設置などを盛り込んだ。

(平成 26 年 8 月 26 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 53

浜松・フラワーパーク コスモス開花

浜松市西区館山寺町のはままつフラワーパークでは、早くもコスモスの白やピンク色の花が咲き始めた。見頃は 9 月上旬の見込みで、今月下旬はヒマワリとの共演も楽しめそう。

(平成 26 年 8 月 24 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 52

御殿場市秩父宮記念公園でアメリカフヨウ見頃

御殿場市東田中の秩父宮記念公園でアメリカフヨウが見頃を迎えている。園内には 130 株が植栽され、8 月いっぱい花を楽しめる。

(平成 26 年 8 月 19 日 静岡新聞 朝刊)

磐田で防潮堤建設着手

磐田市駒場の遠州灘沿岸部にある竜洋海洋公園で 18 日、大地震による津波対策として設ける防潮堤の起工式が開かれた。天竜川河口から袋井市境までの約 11 キロ。防潮堤は海面からの高さが 14m になるように設ける。工事費は 30 億円で、20 年後の完成を目指す。

(平成 26 年 8 月 19 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 51

不正受給 新たに 227 万円

富士市の男性が代表を務めるボランティア団体が県グリーンバンクの補助金を不正受給していた問題で、県は 13 日、男性が代表を務める別の 3 団体が、県緑化推進協会や国土緑化推進機構などの補助金から少なくとも 277 万円を不正に受け取っていたと発表した。

(平成 26 年 8 月 14 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 50

浜名湖ガーデンパーク パンパスグラス見頃

浜松市西区村櫛町の浜名湖ガーデンパークでは、西洋ススキとも言われる「パンパスグラス」が見頃を迎えている。パンパスグラスはイネ科の多年植物。夏から秋にかけて垂直に立った茎に、50~70cm ほどの羽毛のような花穂を付ける。

(平成 26 年 8 月 12 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 49

静岡市 みどり条例制定へ骨子案

静岡市は、みどりの保全と緑化の推進を図るため、「(仮称)静岡市みどり条例」の制定に向け作業を進めており、条例骨子案を示した。公共建築物または敷地 1000 ㎡以上の事業所を設置する者は、敷地内の緑化に関する計画を作成し、市と緑化協議を行うことになる。条例案は 2015 年の市議会 2 月定例会に提出し、4 月からの施行を目指す。

(平成 26 年 8 月 6 日 建通新聞)

緑や樹木に関する記事 48

補助金 130 万円不正受給 県グリーンバンク事業

富士市の「沼川桜整備会」が 2008 年から 2012 年までの 5 年間、架空の領収書を用意して、各地の緑化事業を支援する「県グリーンバンク」から事業費として計約 130 万円を不正受給していたことがわかった。

(平成 26 年 8 月 5 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 47

静岡で園芸全国イベント 来年 9 月

静岡市は、国内有数の園芸イベント「全日本花いっぱい大会」が 2015 年 9 月に市内で開催されることが決まったと発表した。静岡大会は 9 月 19 日～21 日の 3 日間。駿府城公園をメイン会場に、式典、記念植樹、園芸市、花壇コンテストなど展開する計画。

(平成 26 年 7 月 31 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 46

フラワーデザイン 世界のトップ 技と美競う

世界トップクラスのフローリストが技術と美しさを競う「フラワーデザイン国際競技会・アジアカップ2014」が 26 日、沼津市の総合コンベンション施設「プラサヴェルデ」で始まった。

(平成 26 年 7 月 27 日 静岡新聞 朝刊)

岩本山 ヒマワリ 1 万本

富士市岩本山の景観維持を図る住民と農家による「岩本山とかりがね堤を守る会」が、岩本山に植えた 1 万本のヒマワリが見頃を迎えている。8 月下旬まで楽しめる。

(平成 26 年 7 月 29 日 静岡新聞 朝刊)

御殿場 秩父宮記念公園で 10 種類のユリ見頃

秩父宮記念公園(御殿場市東田中)で、ヤマユリなど 10 種類のユリが見頃を迎えている。8 月上旬まで楽しめそうだ。

(平成 26 年 7 月 29 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 45

浜名湖ひまわり祭り 26, 27 日開催

約 30 万本のヒマワリ畑を一般市民に開放し、交流する「浜名湖ひまわり祭」が 26、27 日、浜松市西区庄和町で開かれる。ヒマワリ迷路や青空ライブ、キャンドル作り、スタンプラリーなどがある。

(平成 26 年 7 月 24 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 44

ガーデンパーク再開

浜名湖花博2014閉幕からの1カ月休園していた浜名湖ガーデンパークが16日、整備を終えて再開した。入園無料。花博では「花美の庭」として人気を集めた花の美術館は、池のスイレンが見頃を迎えている。

(平成 26 年 7 月 17 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 43

奇跡のクスノキ 次代へ

静岡市街地を焼き尽くした1940年の静岡大火と1945年の静岡空襲に耐え、現在も葵区の静岡赤十字病院前にそびえるクスノキ。その記憶を子供たちに伝えようと、県東中部を拠点に活動する高齢者団体が冊子づくりに励んでいる。完成後は市内の小学6年生全員に配り、教材として活用される。

(平成 26 年 7 月 16 日 静岡新聞 夕刊)

緑や樹木に関する記事 42

飛鳥京跡の苑池

国内最古の本格庭園・飛鳥京跡苑池で、敷地を囲った塀跡が見つかった。塀は長さ130m以上とみられることが判明。苑池は斉明天皇や天武天皇の宮殿に附属した施設と考えられている。

(平成 26 年 7 月 15 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 41

柿田川 ミシマバイカモ復活

国の天然記念物に指定されている清水町の柿田川で、外来種(オオカワヂシャ)の影響で激減していたミシマバイカモが復活している。今年は、オオカワヂシャが最も生育する4~6月に駆除作業を月2回実施したところ、効果が表れた。最も繁茂していた時期の7割ほどに回復した。

(平成 26 年 7 月 12 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 40

ミシマバイカモ 源兵衛川で見頃

三島市南本町の源兵衛川中流で、清流の水草、ミシマバイカモが小さな白い花を咲かせ、見頃を迎えている。8月上旬ごろまで。300株が群生。緑の細い糸状の葉が清流に揺れてじゅうたんのようになり、直径1.5cmほどの白い花が水面からたくさん顔を出している。

(平成26年7月9日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 39

御霊杉の2世植樹 油山寺

袋井市村松の油山寺にある、幹が松で枝葉がスギという珍しい樹木「御霊杉」の挿し木が1mに成長し、7日、関係者が山門東側の御霊杉のそばに植樹して「2世誕生」を祝った。

(平成26年7月8日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 38

富士山麓のメガソーラー

世界文化遺産・富士山の景観を守ろうと、富士宮市は富士山麓29000haを大規模太陽光発電所(メガソーラー)の「抑止地域」に設定、富士市は6700haで建設自粛を求めているが、強制力はなく決め手を欠いた状態が続いている。

(平成26年7月6日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 37

県リサイクル認定製品活用

静岡県は、リサイクル製品の利用促進とリサイクル産業の育成を目標とした「静岡県リサイクル認定製品」の活用で、2014年度のモデル工事を28件に適用する方針とし、このうち対象製品などが固まった清水港折戸緑地整備工事など12件を明らかにした。

(平成26年7月4日 建通新聞)

緑や樹木に関する記事 36

3000鉢、小さな親切の花咲く

温かな行動をたたえる「小さな親切」実行章の贈呈式が2日、三島市文京町の保育園「恵明キッズサクラビレッジ」であった。ペチュニア3000鉢を育て、5月31日と6月1日の「全国花のまちづくり三島大会」に飾ったとして、市内33幼保育園が受賞した。

(平成26年7月3日 中日新聞 朝刊)

アサガオ 寿命2倍

アサガオの花の寿命を調節する遺伝子を特定し、通常の2倍長持ちさせることに成功したと、鹿児島大と農業・食品産業技術総合研究機構花卉研究所の研究グループが、1日付の英科学誌電子版に発表した。

柏谷フラワー通り彩り

函南町立東中の生徒約120人は1日、この日新しく名付けられた「柏谷フラワー通り」でマリーゴールドなど1850株の植栽に取り組んだ。

(平成26年7月3日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 35

「県ほたるサミット2014in伊豆市大会」開催

伊豆市の天城会館で「県ほたるサミットin伊豆市大会」が開催された。県内のホテル保護関係者や市民が参加し、ホテルの生育環境の保全や地域活性化への活用について理解を深めた。日本ビオトープ協会の櫻井淳会長らによる「ホテルの保全と地域おこし」をテーマにしたパネル討論もあった。

(平成26年6月29日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 34

三保松原 松枯れ対策検討へ

世界遺産富士山の構成資産の一つ、三保松原の松林を将来にわたって維持・管理していく方策を協議するため、県が設置した有識者の保全技術会議(座長・近藤誠一前文化庁長官)の初会合が、22日県庁で開かれた。

(平成26年6月23日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 33

森町 香勝寺でキキョウの花見ごろ

「ききょう寺」で知られる森町草ヶ谷の香勝寺でキキョウの花が見ごろを迎えている。15 品種 4 万株が植えられ、紫をはじめ、白やピンクの花が境内を鮮やかに彩っている。

(平成 26 年 6 月 19 日 中日新聞 朝刊)

富士市の岩本山公園でアジサイ見ごろ

富士市岩本の岩本山公園では約 1 万株のアジサイが咲き始めた。

(平成 26 年 6 月 20 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 32

校庭芝生化 生徒ら挑戦 島田工業高校

サッカー部員や野球部員ら約 150 人が芝生のポット苗を校庭に移植した。県農林技術研究所内の芝草研究所の協力を得て、校庭約 15,000 m²の全面芝生化に挑戦する試み。

(平成 26 年 6 月 18 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 31

三島、国道 1 号沿い アジサイ見頃

三島市塚原新田の国道 1 号沿いで約 40 種 600 本のアジサイが見ごろを迎えている。高さ 7~8m の斜面を中心に青やピンクなど色とりどりの花が咲き誇っている。

(平成 26 年 6 月 14 日 静岡新聞 朝刊)

浜名湖花博2014 花と緑の祭典閉幕

浜松市西区のはままつフラワーパークと浜名湖ガーデンパークの 2 会場を舞台に 87 日間にわたり開催してきた浜名湖花博2014が 15 日、閉幕した。当初目標を大きく上回る 129 万 3289 人が訪れた。閉会式では川勝知事が「静岡県の花の力が多くの人々を魅了して大成功だった。」と挨拶した。

(平成 26 年 6 月 16 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 30

遅咲きクレマチスが見頃

長泉町東野のヴァンジ彫刻庭園美術館の庭園で、遅咲きのクレマチスが見頃を迎えた。ジュエリー・ローズやハッピー・ダイアナなど 150 種が園内を彩っている。

(平成 26 年 6 月 13 日 静岡新聞 朝刊)

「逆転落札」が16. 2%

静岡県交通基盤部が 2013 年度に実施した総合評価落札方式の入札で、応札金額が 2 位以下だった入札参加者が施工計画や過去の工事成績などの技術力(技術加算点)で評価値を覆して落札する「逆転落札」が工事全体の 16.2%を占めた。

(平成 26 年 6 月 13 日 建通新聞)

緑や樹木に関する記事 29

修善寺虹の郷 ハナショウブ見頃

伊豆市の修善寺虹の郷でハナショウブが見頃を迎えた。ハナショウブは日本庭園内の「花しょうぶ園」6000㎡に江戸系、伊勢系、肥後系など約 300 種、7000 株が植栽されている。菖蒲ヶ池を中心に太鼓橋や水車小屋などの周りに咲く花が和の情緒あふれる風景をつくりだしている。

(平成 26 年 6 月 12 日 静岡新聞 朝刊)

牧之原 大鐘家で「あじさい祭り」

牧之原市片浜の大鐘家で「あじさい祭り」が開かれ、江戸時代の庄屋屋敷の庭園や裏山などに咲き誇る 35 種約 12000 株のアジサイが観光客らを出迎えている。

(平成 26 年 6 月 12 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 28

浜名湖花博2014 来場 120 万人突破

6 月 9 日、開幕から 81 日目で累計来場者数が 120 万 2487 人になった。

(平成 26 年 6 月 10 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 27

遠州灘防潮堤 地元苗木業者がバックアップ

県が浜松市の遠州灘沿岸に整備している全長 17.5km の防潮堤周囲に保安林として植栽するクロマツや広葉樹の苗の育成を市内の苗木業者が急ピッチで進めている。浜北区の西遠林業種苗協同組合は、マツ枯れに耐性がある抵抗性クロマツ約 11 万本を数年後の防潮堤完成までに県に供給する。

(平成 26 年 6 月 6 日 静岡新聞 夕刊)

ジャカランダ遊歩道が完成

世界三大花木の一つ「ジャカランダ」の苗木 106 本を植栽した遊歩道が熱海市東海岸町の熱海サンビーチ前に広がる「お宮緑地」に完成した。

(平成 26 年 6 月 7 日 静岡新聞 朝刊)

袋井市「可睡ゆりの園」見頃

袋井市久能の「可睡ゆりの園」でユリが咲きそろい、見頃を迎えた。回遊式庭園には、150種 200万輪ほどが植えられている。

(平成 26 年 6 月 8 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 26

浜名湖花博2014 来場 110 万人を突破

浜松市西区の 2 会場で開かれている「浜名湖花博2014」は 3 日午後、累計来場者数が 110 万人を突破し、はままつフラワーパークで記念セレモニーが開かれた。

(平成 26 年 6 月 4 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 25

浜名湖花博2014 100 万人突破

「浜名湖花博2014」の来場者数が 29 日、100 万人を突破した。予想を超える好調な人出は、会場を 2 か所にしたことによる相乗効果と、時期によって変わる花を楽しんでくれるリピーターを獲得できたことが大きい。

(平成 26 年 5 月 30 日 中日新聞 朝刊)

「全国花のまちづくり三島大会」開幕

花と緑にあふれる地域づくりを全国の先進地と共有する「全国花のまちづくり三島大会」が 31 日、三島市内で開幕した。主会場の市民文化会館では花を活用した事例発表があり、約 900 人の聴衆が参加した。1 日まで花にまつわるイベントが市内各地で繰り広げられる。

県華道展第 2 部始まる

県内の華道 34 流派が集う「第 63 回県華道展」の第 2 部が 31 日、浜松市の浜名湖ガーデンパークで始まった。第 1 部と作品を入れ替え、新たに 83 点が会場を彩った。

(平成 26 年 6 月 1 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 24

浜名湖花博2014 短編小説「花と緑の物語」入賞作発表

浜松市は 26 日、浜名湖花博2014の関連事業として全国から募集した短編小説「はまつ花と緑の物語」の入賞作 10 点を発表した。最優秀賞には浜松市東区笠井町の主婦河島憲代さんの「じいちゃん」と雄策の花ごよみ」が選ばれた。

(平成 26 年 5 月 27 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 23

浜名湖花博2014 来場者 90 万人を突破

浜名湖花博2014は開幕 64 日目の 23 日、入場者数が 90 万人を突破した。このままのペースでいけば会期末の 6 月 15 日までの 100 万人突破は確実となった。

(平成 26 年 5 月 24 日 中日新聞 朝刊)

バラ 100 種見頃 修善寺虹の郷

伊豆市の修善寺虹の郷「ロイヤル・ローズ・ガーデン」でバラが見頃を迎えている。6000 m²の敷地内に約 100 種、2300 株を植栽している。

(平成 26 年 5 月 26 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 22

初夏を彩る大輪のバラ

長泉町のクレマチスの丘のヴァンジ彫刻庭園美術館の庭園で、バラが咲き始めた。開花したのは、90 品種ほどの木バラとつるバラ。今年は 4 月の寒さの影響で例年より 1 週間ほど開花が遅れたため、遅咲きのクレマチスとバラの競演も見られるという。

(平成 26 年 5 月 23 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 21

食べられるバラを栽培する

見てよし、香りよし。これに加えて、食べても良しのバラを栽培している。化学系の農薬、肥料を使わず、2000 m²の温室で 15 品種を山田勝さん(愛知県弥富市)が育てている。バラでは国内初めてとなる日本農林規格の有機農産部 t 具の認定を 2012 年取得した。

(平成 26 年 5 月 22 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 20

河津バガテル公園 甘い香り春バラ見頃

河津町の「河津バガテル公園」で、春バラが見頃を迎えている。約 3ha のバラ園には、1100 品種、6000 株が植えられている。見頃は 6 月末まで。同園は今シーズン初めて、バラが最も美しく見える早朝バラツアーを企画した。

裾野の「ぐりんぱ」 チューリップ 7 万本、富士山と競演

富士山麓の裾野市須山の遊園地「ぐりんぱ」で、約 7 万本のチューリップが見頃を迎えた。標高 1200m に位置する遊園地内で 1 週間前から咲き始めた。6 月初旬まで楽しめるという。

(平成 26 年 5 月 21 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 19

バラの“万博” 島田の公園

島田ばらの丘フェスティバル2014春が、17 日島田市野田の市ばらの丘公園で始まった。約 1.9ha の園内では、約 360 種、8700 株世界のバラを栽培している。

(平成 26 年 5 月 18 日 中日新聞 朝刊)

浜名湖花博2014 来場 80 万人突破

浜名湖花博2014の来場者が 17 日、80 万人に達した。目標に開幕 58 日目で到達した。ほぼ、1 週間に 10 万人のペースで来場者数を刻んでいる。県の担当者は「100 万人突破が射程に入ってきた」としている。

(平成 26 年 5 月 18 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 18

ニオイバンマツリ開花

下田市 3 丁目の国指定史跡・了仙寺で、初夏を告げるニオイバンマツリが咲き始め、ジャスミンのようなさわやかな香りを放っている。ニオイバンマツリはナス科の常緑低木。今月下旬まで楽しめる。

(平成 26 年 5 月 16 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 17

浜名湖花博2014 「三春の滝桜」孫木植樹

はままつフラワーパーク会場で 14 日、日本三大桜の一つとされる「三春の滝桜」の孫木の植樹式があった。孫木は樹齢 20 年、高さ4m。三春の滝桜は推定樹齢千年を超え、国の天然記念物に指定されている。

(平成 26 年 5 月 15 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 16

浜名湖花博2014 来場 70 万人突破

花博実行委は 12 日に来場者数が 70 万人を超えたと発表した。月内にも目標の 80 万人を突破する見通しで、閉幕までに 100 万人超えの可能性も出てきた。

はままつフラワーパーク会場ではバラの花が見ごろを迎えている。大温室近くのローズガーデンでは、170 品種約千本を栽培。見ごろは6月下旬まで。

(平成 26 年 5 月 13 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15

鮮やか赤色 群生—南伊豆・長者ヶ原のヤマツツジ

南伊豆町の伊浜の長者ヶ原で、群生する赤色のヤマツツジが見頃を迎え、行楽客らを楽しませている。群生地を 1 周できる 1km の遊歩道沿いにベンチや展望台があり、晴れている時は頂上から富士山も見られる。

(平成 26 年 5 月 12 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 14

全長 250m フジ見頃 伊豆「修善寺虹の郷」

伊豆市の「修善寺虹の郷」の日本庭園でフジが見頃を迎え、連日多くの来場者でにぎわっている。全長 250m、幅 5m の藤棚から薄紫色の花が数多く咲いている。天候が良ければ 5 月中旬まで楽しめる。園内では、このほかシャクナゲも見ごろになっている。

(平成 26 年 5 月 9 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 13

浜名湖花博2014 デザイン咲いたこども花絵巻

はままつフラワーパーク会場で 2 日、約 11000 本のチューリップの花を使った華やかな「こども花絵巻」の制作があり、今春開校した小中一貫校庄内学園の 5～7 年生 200 人が協力して完成させた。チューリップは、浜松市と都市間交流している新潟市の市民団体「にいがた花絵プロジェクト」が提供した。

(平成 26 年 5 月 3 日 中日新聞 朝刊)

浜名湖花博2014 ペチュニア最盛期

ゴールデンウィーク後半となった4日は好天に恵まれ、入場者は3月21日の開幕以来、最も多い40,744人。浜名湖ガーデンパーク会場の「花銀河」では5万本のペチュニアが最盛期。「花美の庭」ではバラの早咲きが可憐に咲き始めた。

(平成26年5月5日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 12

浜名湖花博2014 入場者50万人突破

はままつフラワーパークと浜名湖ガーデンパークの2会場で開催中の「浜名湖花博2014」の来場者が50万人目となった。50万人目は磐田市の御手洗さん家族。主催者から県産コシヒカリやガーベラの花束、マスコットキャラクターの「のたね」のぬいぐるみなどが贈られた。

(平成26年5月2日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 11

ナニワイバラやモッコウバラ見頃

熱海市のアカオハーブ&ローズガーデンの入り口周辺などに育つ早咲き品種のナニワバラやモッコウバラが、見頃を迎えている。ホテルニューアカオからガーデン入口をつなぐ国道135号線沿いは、1990年に遊歩道「パンオラマロード」が整備された。

(平成26年5月1日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 10

ツツジ10万本咲き誇る 伊東 小室山で祭り開幕

約10万本のツツジが咲き誇る「小室山つつじ祭り」が29日、伊東市川奈の小室山公園で始まった。今年で43回目。約3万5千㎡の園内にツツジが赤いじゅうたんのようになり、多くの親子連れや観光客が散策を楽しんでいる。

(平成26年4月30日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 09

浜名湖花博2014 花銀河が5万本のサフィニアに

浜名湖花博2014の浜名湖ガーデンパーク会場の大花壇「花銀河」が5万本のサフィニアに植え替えられ、来場者の目を引いている。花銀河は水辺の劇場奥にある3500㎡。開幕後は青いネモフィラが

植えられていたが、花の時期が終わったため、20～25日に植え替えられた。サフィニアはペチュニアの1種。花壇には宇宙をイメージして紫、赤、白の三色が植えられている。

(平成26年4月26日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 08

参道にボタン競演 島田の静居寺で大輪

島田市旗指の静居寺の参道沿いで、ボタンの花が見ごろになり、参拝客や地域住民らの目を楽しませている。約30mの参道両脇の花壇にある約120株が毎年、直径15～20cmの大輪の花を咲かせている。

(平成26年4月25日 中日新聞 朝刊)

フジの滝 夢幻 吉田の林泉寺

吉田町民に「花の寺」として親しまれている吉田町片岡の林泉寺で、ナガフジが見頃を迎え、参拝者や行楽客の目を楽しませている。今年の開花は、例年よりやや遅く、現在七分咲き。5月5日まで長藤まつりが催される。

(平成26年4月25日 中日新聞 朝刊)

浜辺覆うハマエンドウ見頃 沼津・千本浜

沼津市小諏訪の千本浜で、ハマエンドウの花が見頃を迎え、生い茂る葉とかれんな花が濃紫色と緑色のカーペットを敷いたような光景を浜辺につくり出している。

(平成26年4月25日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 07

花の日持ち保証します

もうすぐ母の日。花の購入が多くなる時期だが、最近の日持ちを保証する販売法が広がっている。ここ10年以上、国内生産額は下がっており、消費拡大策として国も推進する。日本の切り花、鉢物などの2011年の生産額は3671億円で、ピークの1998年の6割弱。こうした中、消費拡大と客の満足感を高めようと、ここ数年、大手スーパーを中心に日持ち保証が普及してきた。

(平成26年4月24日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 06

浜名湖花博2014 開幕1ヵ月入場者36万人超え

浜松市で開かれている浜名湖花博2014は、開幕から1ヵ月がたち、順調に入場者数を伸ばしている。地元への経済波及効果は10年前の花博のような派手さは見られないものの、着実に広がりつつある。観光関係者らは「内容は評判が良いので口コミに期待したい」と語る。

(平成26年4月22日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 05

藤まつり、来月 5 日まで多彩な催し

藤枝市若王子の蓮華寺池公園で 19 日、第 31 回藤まつりが開催した。5 月 5 日まで多彩な催しが繰り広げられる。今年は市制施行 60 周年を祝う記念事業として開催。実行委によると、公園内の藤は 23 日前後に見頃を迎えるという。

(平成 26 年 4 月 20 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 04

思川とマメザクラ見頃

西伊豆町宇久須の県道 410 号線沿いで、遅咲きの桜「思川(おもいがわ)」とマメザクラが見頃を迎え、西天城高原へと続く山道を彩っている。直径 1～3センチほどの花を付けるマメザクラは町営「牧場の家」周辺の群生地を中心に、白や薄桃色の花が満開になっている。

(平成 26 年 4 月 18 日 静岡新聞 朝刊 東部版)

緑や樹木に関する記事 03

浜名湖花博2014 入場 30 万人達成

4 月 16 日に、浜名湖花博 2014 の入場者が 30 万人を超えました。内訳はフラワーパーク会場が 27 日間で 215,000 人、ガーデンパーク会場が 12 日間で 95,000 人です。6 月 15 日までの会期で 80 万人を目標にする実行委は「大型連休を好調なペースで乗り切れれば 100 万人が見えてくる」と意気込む。

(平成 26 年 4 月 17 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に 関する記事 02

公園整備へ無償借地制

静岡市は 2014 年度、公園の空白地解消に向け、整備用地を無償で貸し付けてもらう「無償借地公園制度」を導入する。用地確保の費用を抑え、公園整備のスピードアップを図る。市によると、無償借地による公園整備の制度化は県内で初めて。土地所有者のメリットとして借地の固定資産税と都市計画税が免除される。本年度は駿河区 1カ所、清水区 2カ所で測量・実施設計を行う。

(平成26年4月16日 静岡新聞 朝刊)